



NO. 906  
 発行  
 2017年  
 2月22日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 齊藤 仁司  
 編集責任者  
 教 宣 部



# 全体の意見②

## 第34回東日本本部拡大委員会



○電車・185系、651系、251系など20年以上の車両の故障が多い。雨漏れなども有り修繕に時間がかかって厳しい労働環境だ。電車1両1億円、1編成で20億円と言われているが厳しい労働実態だ。


17春闘・東大宮センターとして現場長へ申し入れ交渉、若年労働者を含めて要求実現へ取り組み、訴え理解してもらっている。この取組みから拡大へつなげる。

### 当面の取り組み

○2017年春闘勝利！  
 国労中央総行動の取り組み

- 3月1日9時30分～  
 各政党・国会議員への要請行動  
 衆議院第二議員会館
- 3月1日14時～17時  
 代々木公園野外ステージ  
 「中央総決起集会」
- 3月7日分会代表者会議  
 地本事務所 18時～20時  
 春闘の取り組みについて

○安全キャラバン 駅頭宣伝行動  
 2月25日(土)9時15分～  
 新潟駅万代口バスターミナル前



### 闘う春闘で 国労の存在を示す

●JR各社との格差が大きくなっていく。職場では効率化が進み労働強化と合理化が強行されている。自然災害やレール使用料で減収、人件費の切り下げで対応している。青年へのレクへの参加を呼びかけている。職場など国労との信頼関係から国労加入につながっている。

エルダー交流会・出向先で悩み退職した(東労組)。実態の把握と取り組みの強化。(東京)



17春闘・闘う春闘でもう一度、国労の存在を示して欲しい。

### 駅の遠隔操作45駅

●出向解除で駅へ戻った。勤務実態が複雑になった。ホームの転落事故が発生した。駅で声かけサポート運動の実施、ホームドアの整備、ホーム要員不足になっている。107駅で45駅が遠隔操作になっている(横浜管轄)。早急な改善を。

委託駅の提案・業務委託の追加提案、無人化が進む。要員の削減



### 労働条件改善の闘い

○労働条件改善の闘い・JR東日本は8万2千人から5万6千人へ貨物は1万2千人から5千人へ社員数が減っている。安全・安定輸送を考えているが、合理化が進んでいる。効率化施策について厳しく追及していく。

●委託会社の賃金体系・就職する1ヶ月前に労働条件が提示される。書面での提示を求める。(東京)

●労働条件の引き下げになっている。労働条件の引き下げになっている。

### 第二の青年加入を 取り組む

●組織拡大・新採者の国労加入。全体の共有化、連携などが国労加入を促している。

17春闘・回答指定日について昨年回答が遅れた。エリアにおいても3月15日の回答について方針書に明記して内外に明らかにすること。

高崎でも3月14日集会を開催する。しっかりと体制を積み上げていたきたい。3月15日に向けて大衆運動を積み上げること。

組織拡大・22歳の青年が国労加入した。昇格試験もトビ合格が合った。国労は差別されていないことを訴える。他労組との違いを訴えること。

労働契約法20条・高裁で敗訴、エルダーは減額される、労働条件も低下している。これは違法ではないか。東日本本部の見解は。平和の問題・オスプレイの訓練飛行について国労として反対する姿勢を。(高崎)







### 組織拡大について 財政的支援を

19歳のGS社員が国労加入している。財政的な支援を求める。組対費の継続を求める。これからエルダー社員が増える。新たな業務や要員の拡大。新たな職域をつくる。  
ライフサイクル・要員の配置、転勤、何年勤務するのか、非正規でも規定を設けること。新人社員が退職、



入につながった。青年は1年が過ぎてから更に拡大行動を展開している。交流会の開催は大きな成果を上げている。第二の青年加入を取り組んでいる。  
1月21日、新採対策会議、2月20日から各分会が取り組んでいく。自分たちができることを取り組んでいく。

他職場への変更があつて慣れずに悩み退職した。ライフサイクルの見直しを。  
地方交通線・利用者の減少、守る取り組み。具体的な取り組みを進める。(盛岡)

### ストライキの配置を

●17春闘・貨物は厳しい実態が続いている。30年で2千万円の格差がJR東日本とある。子どもの進学、新築など厳しくて断念している。貨物会社の体制は今後も変わらない。ストライキを配置し客・貨一体の闘いを取り組む、地方へのオルグを。  
エルダーの出向先会社の労働条件改善を取り組む。夜間作業の休憩時間が無い。JRとの打ち合わせが非番か休みだ。月、80時間の残業を超えないように指導を。超えたものはサービスマンになる。  
事故は、この労働実態が影響している。エリアの取り組みを地方へ進めていく。

エルダー出向者は厳しい労働実態なので退職している。第一建設は出向を希望しない人が多い。地方での労働条件は厳しい。  
一括和解以降・転勤者が前の職場に戻れない状況だ。退職しないとふるさとに戻れない。問題解決を追及する。労働環境の改善を。(仙台)



### 手帳取得を 運動として取り組む

○アスベスト問題・健康管理手帳取得の取り組み、事業主証明が取得できない(JR)。会社側の立場、事業主証明は消極的だ。アスベストは働く環境に多く使用されている。手帳の取得は重要だ。JRへの対応、手帳取得を運動として取り組む。  
レク・実行委員会では毎年スキーを取り組んでいた。1月、実行委員会開催前に東労組のスト権投票の件で実行委員会は開催されなかった。  
東労組の弱体化と会社は考えている。拡大のチャンスだ。

17春闘・会社の回答の遅れが続いている。ストライキを背景に春闘での強い意志、指導を求める。(東京)

### 国労運動は 組合運動の基本だ

●職場の状況・拡大が1月23日ロジで、2月2日に長野駅で拡大があつた。ロジの拡大は仕事での悩みあり学習交流会や新年会の参加で国労加入を決意した。  
駅での復帰者は、国労運動は組合運動の基本だ。胸を張って退職したいと考えた。復帰について批判もあるが、それでは運動にならない。昔の絆を大切にしたい。国労組合員で昇進試験で助役試験に合格している若い人たちに国労運動を引き継いでいくこと。国労の名称について議論が止まっている。組対費の継続を求める。

労働条件について、職場は委託化が進んでいる。アスベスト、石綿の撤去などある。健康管理手帳の取得

は13名だ。

委員の発言は全体で12名でした。

### 編集後記

国鉄新潟では、拡大中央委員会としてエリア本部の拡大委員会の特集を4号にわたり特集しました。  
新潟地本も25日に拡大委員会が開催されます。職場、地域の取り組み活動の報告をお願いします。



職場や地域の活動など身近に起こったことなど地本編集部にお寄せ下さい。

「国鉄新潟」は組合員、ひとりひとりが作っていく機関紙です。なかなか編集委員会が開催されず大変な状況で編集作業をしています。  
組合員、みなさんの御協力を宜しくお願いします。

